



一

次の短文の傍線部のカタカナは漢字に、漢字はカタカナに改めなさい。文字は丁寧書きなさい。

- ① こんなクツジヨクを味わうのは初めてだ。
- ② 中断していた会議をサイカイする。
- ③ 炊飯器にコメツブが付いている。
- ④ まずはヤサしい問題から解いていく。
- ⑤ 彼は終始穏やかな表情だった。

## 二

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、筆者は本書の中で、「科学的な装いをとっているが、科学の本筋から離れた非合理的」言説のことを「疑似科学」と呼んでいます。（本文には一部省略したところと、表記を改めたところがあります。）

### 科学の法則違反

まだその原理が明らかでなかった時代においては科学であったのだが、原理や法則が明らかになるにつれ非科学・疑似科学になった事例は多数ある。錬金術は一八世紀にいたるまで科学と見なされていたし永久機関も長らく真剣に研究された。やがて、錬金術から化学、永久機関から物理学という本物の科学が生まれ、いずれも疑似科学であるとわかった。イカロス以来、鳥のように大きな翼をつけて空を飛ぶ夢を求めて何人も人が挫折したが、体重に比して腕の力が不足していることが明白に示され、鳥のように空を飛ぶ方式は非科学になってしまった。それに代わって、固定した翼にエンジンを搭載する方式が科学として認知されることになった。血液型の場合、初めは人間の性格がそれに刻印されているのではないかと調べられたのだが、I 意味がないことが判明した。それにもかかわらず、人間の分類に使われるかのように思わせる知恵者がいて疑似科学に堕してしまった。

未知の天体と太陽との衝突で物質が放出されて惑星が次々と生まれたという説は、二〇世紀初頭に著名な科学者が提唱して一時は流行したけれど、観測量（角運動量＝太陽の自転と惑星の公転運動の大きさの合計）が説明できず、今では空想にしか過ぎないと思われる。科学は時代とともに深化し、それまでの通説が覆ることを繰り返してきたのだ。II、それをなかなか受け入れられず、相も変わらず旧説に固執する人がいる。

今なお存在しているのが「② 相対性理論は間違っている」とする人たちである。研究会を組織し（会誌まで発行されている）、アインシュタインの特殊相対性理論を否定し続ける人たちの集団だ。おそらく世界中で一〇〇〇人はいると思われるが、自分たち自身が間違っている（論理の誤解、計算間違い、思い違いなど）にもかかわらず、飽きずに主張し続けている。特殊相対性理論は、例えば加速器の設計には不可欠で、それによって正しく運転されているのにお間違いだと言いつける「勇氣」ある人々なのだ。その人たちは、常識に違反しているように見える相対性理論がどうしても受け入れられないのである。「相対性理論は間違っている」は間違っている」と指摘されても挫けない。なにしろ、「既存の科学者たちは間違いを認めれば自分たちの権威が落ち、職を失うのを恐れて我々の主張を認めないのだ」と、コペルニクスばりの悲壮感を共有していて団結しているからだ。

これは一般の人々に対する実害は少ないが、若者に与える影響は大きい。「相対論は間違っている」という本にコロリと騙され、それに嵌まって私の言うことを信用しない物理学科の学生にお目にかかったこともある。（それなりに物理の訓練をしているので、どこで

間違ったかを理解させることは簡単にできたのだが。) 科学者が書いたきちんとした相對論の本より、彼らの間違いだらけの本の方がよく売れているのが現状で、それは科学をゲームのように見ている人が多いためかもしれない。

さすが日本では永久機関を売る商売はないが、アメリカではそれに似た機械作りに熱中している人も少なからずいる。エネルギーをいっさい投入しなくても(あるいは初めだけ投入して後は放っかけても) 動き続ける機械で、「これで永遠に電氣代を払わずに済む」という謳い文句である。その理由はテレビが面白がってインタビュウやら実物の機械を撮影して放映するためで、ついそれに乗せられて購入する人がいるためらしい。(ある州で裁判沙汰になると姿を消し、また別の州で商売にかかるそうである。) 必ず、ちゃんとエネルギー保存則を満たしていて、かつエネルギーが無限に取り出せると X もなく主張するのである。磁氣作用は目に見えないだけによく利用されており、日本でもエネルギー危機を解決する効率を達成したとして私に売り込んだこともあった。もしそれが本当なら、金のない私にはなく、電力会社に売り込めばガツポリ儲かると思うのだが。

水から④でホメオパシーという療法がある。毒物であってもそれを限りなく薄めて飲むと体に良いとする療法で、毒物を水で何回も希釈する。一回で一〇〇分の一くらいに薄め、それをまた一〇〇分の一に薄め、という操作を四〇回以上繰り返すのである。そうすると、もはや元の成分はすっかり無くなってしまっているのに、それを飲めば効能があると言う。その理由は、水は毒物を含んでいたことを記憶しており、毒物に対抗する力が生まれて効き目があるというわけだ。水が記憶するというようなことはあり得ないのだが、それを信じる人も多い。こうなると超常科学領域に入ってしまう。水からむ疑似科学が多いのは、身近にふんだんにあるがために、かえってそこに神秘的な何かがあると言われれば信じ込みやすいのだろうか。

### プラシーボ効果

偽薬を与えても効き目がある現象を「プラシーボ(偽薬)効果」と言う。確かにその効果はあるのだが、なぜ効き、どれくらい寄与しているかを定量的に(数値として) 実証できないという難点がある。非科学ではないが、科学として理由と効果の大きさが厳密に洗い出せないのだ。私の経験では、お腹が痛いと言えぬ娘に「良い薬だ」と言ってメリケン粉を与えたらケロツと直ったことがある。効くと信じて飲めば実際に効くように作用するのだ。そのため、開発された試薬が現実に薬効を示すかどうかの治験では、本物と偽薬の薬二種類を全く同じ形で用意し、実験者にも被験者にも本物かどうか知らせないで効き目を調べる方法が採用されている(二重盲検法)。偽物であっても効き目が出るため、 Y からだ。薬のタイプによる差異もあるから二重盲検法を数多く重ねないと、科学的に薬効が実証できなかったことにならない。(すべての薬はプラシーボ効果で説明できると極言する医師すらいるほどであ

る。)

プラシーボ効果に似たものに、信頼する医者に元気づけられると病気の進行が抑えられる傾向があるとか、尊敬できる神父さんに相談している信者は長生きしているというデータもある。先生から褒められるとがんばろうという気になって成績が上がるのもこの類と言える。人間には内部に生き続けようとする活力のようなものが備わっており、それを何らかの方法で刺激すれば肉体的にも精神的にも良い効果としてはたらくのである。このような人間の複雑な作用はまだ科学的説明がほど遠い状態と言える。(車酔いを止める薬だと思つて飲めば、たとえ胃薬であつても人には効き目があるが、犬には効かない。)

プラシーボ効果を悪用した疑似科学が流行っている。マイナスイオンが体に良いとか、還元水が健康を維持すると聞かされると、本人もその気になって専念するので思わぬ効能が出るのである。何の変哲もない健康食品であつても、科学の専門用語を使い、権威者が太鼓判を押すと体に良く効くと思え、実際に効能が出る場合もある。(中略)

偽薬であつても実際に効き目があるのだから、全否定はできない。しかし、注意すべきことがある。一つは、プラシーボ効果は人によつて効いたり効かなかつたりするから(そして、それを判別する方法がわからないから)、すべての人間に適用できるわけではないことだ。他人に効き目があつたとしても自分に効くかどうかわからないのである。もう一つは、プラシーボ効果は一過性が多く、また持続しない傾向があることだ。メリケン粉で腹痛が治るのは一回きりで、二度目には通用しない場合が多い。プラシーボ効果のみに頼るのは危険なのである。(だから、私は腹痛が治つたという娘をすぐ医者のところへ連れて行つた。)また、いったん効能を疑うと、これまで効いていたのにたちどころにプラシーボ効果は消えてしまう。(だから、自己暗示ではどうしても疑いが残るが、他人から勧められると効き目が出やすいという特徴が指摘できる。)

プラシーボ効果とは本質的には異なっているのだが、プラシーボ効果と誤解されやすいものに「ホーン効果」がある。ホーンという町で起こつたことで、上位組織である郡の然るべき部署から調査が入ると知らせると、調査対象に指定された施設では通常以上の効率が上がったのだ。そこで、調査をするという通達さえすれば、優れた結果が出てくるといふ誤認が起こつた。実際には、調査が入ると聞いて、労働状況や環境条件を改善し作業員がせっせと熱心に働いたため、本来持っている以上の能力を発揮する結果となつたに過ぎない。(別にホーン町の町だけでなく、どこでも起こつていふことだ。)原因と結果——発端の調査の通告と最後の能力以上の仕事——だけしか見ないと、原因が結果を導いたように見えるがそうではなく、その間に隠れた真の原因があることを見逃している例である。

社長が命令した、成績が上がった、という場合を考えてみよう。これを単純に因果関係だと誤解すると、命令さえ出せば成績が上が

ると誤認してしまう。(ワンマン社長の場合にそのような間違いが起こりやすい。) その間に、命令に伴って働きやすい条件を整えたり、給料の査定法を変えたりしたというような真の原因が必ずあるもので、それを見逃すと会社を潰すことになりかねない。見かけの因果関係と隠れた部分にある真の原因とを腑分けしないと、間違った結論を得てしまう可能性があることに注意すべきなのである。

病院で薬をもらって飲んだら早く治ったという場合でも、病気を早く治したために生活習慣を改善したので薬が持つ能力以上の効果を上げたことがある。これもホーソン効果と言える。この場合、きちんと全体の状況を把握すれば、実は生活習慣の改善がよい効果をもたらしたことがわかる(真の原因わかる)のだが、現象だけ——薬をもらった(原因)、薬が良く効いた(結果)——しか見ないと薬の効果を過大評価してしまう危険性があるのだ。さらに、薬そのもののプラシーボ効果が加わるからいつそう誤解してしまう。プラシーボ効果とホーソン効果が混じると(例えば、健康食品を摂った、規則正しい生活を送った、病気が治った)効能がいずれにあったかがわからなくなってしまう。疑似科学の高等手法である。

(池内了『疑似科学入門』)

(注) \*錬金術……鉄、銅、鉛などから金を作り出そうとした昔の化学技術。

\*永久機関……一度動き出すと外からエネルギーを加えずに永遠に動き続ける機械。また、外部からエネルギーを取り入れずに、無限にエネルギーを取り出せる機械。

\*イカロス……ギリシア神話に登場する人物。蠟で翼を作り、空を飛ぶ能力を得るが、太陽に近づき過ぎたことで蠟が溶け、墜落して死んだ。

\*相対性理論……二〇世紀の科学者アインシュタインが確立した物理学の理論。特殊相対性理論と一般相対性理論がある。

\*コペルニクス……一五〜一六世紀の天文学者。地球が自転し、太陽を周回しているという「地動説」を唱えたが、当時はこの考えが周囲からはとんと認められなかった。

問一 空欄Ⅰ〜Ⅱに入る言葉として最も適当なものを次から選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア ところが    イ つまり    ウ たとえば    エ やがて    オ すなわち

問二 傍線部①「非科学・疑似科学になった事例は多数ある」とあるが、本文で「疑似科学」「非科学」とされていないものを、次から

一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 鉄、銅、鉛などから金を作り出そうとする錬金術。
- イ 未知の天体と太陽との衝突によって惑星が生まれたという説。
- ウ 人間の性格と血液型との間にある一定の関連性。
- エ エネルギーをいっさい投入しなくても動き続ける永久機関。
- オ 固定した翼にエンジンを搭載して空を飛ぶ技術。

問三 傍線部②「相対性理論は間違っている」とする人たち」とあるが、相対性理論を否定し続ける人たちについての本文での説明と

して最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 勇気ある挑戦者として尊敬されている。
- イ 主張が理論の誤解や思い違いに基づいている。
- ウ 科学の進歩に重要な役割を果たしている。
- エ 自分たちの権威が落ちることや職を失うことを恐れている。
- オ 現代物理学の基礎を築いた人物として認められている。

問四 傍線部③「永久機関を売る商売」とあるが、この類の商売がまだに成り立つ背景として最も適当なものを次から選び、記号で

答えなさい。

- ア 科学的にエネルギー保存則を満たすことが可能になったこと。
- イ メディアがその機械を取り上げ、一般の人々に誤解を与えること。
- ウ アメリカのある州の裁判所が永久機関の販売を公認していること。
- エ 日本でその機械がエネルギー危機を解決する効率を達成したこと。
- オ 科学者が永久機関の性能を実証し、効果を保証していること。

問五 空欄Xに入る言葉として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 臆面    イ 余地    ウ 面影    エ 立つ瀬    オ 賛同

問六 傍線部④「ホメオパシー」とあるが、これが非科学であると言えるのはなぜですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 毒物をどれだけ水で希釈しても、毒性があることに変わりはないから。  
イ 毒物による人体への影響は体質によって異なり、一定ではないから。  
ウ 水が過去の記憶を保持するというようなことは考えられないから。  
エ 毒物による効能は常にあるとは限らず、あてにならないから。  
オ 毒物の効能についてはまだ研究中であり、確定していないから。

問七 空欄Yに入る言葉として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 本物の薬効とプラシーボ効果との相乗効果を調べることが重要である  
イ 本物と偽薬では同じ効き目があることを証明しなければならぬ  
ウ 偽薬の方が本物より効き目があることを確かめる必要がある  
エ 偽薬の方が効果があるなどということはどうしても認められない  
オ 本物の効き目との差を出さないと本当の効能が確かめられない

問八 傍線部⑤「プラシーボ効果のみに頼るのは危険なのである」とあるが、筆者はなぜこれが「危険」だと述べているのですか。四十字以上五十字以内での確に説明しなさい。

問九 傍線部⑥について、この場合の「隠れた真の原因」とは何であったのですか。それを説明した次の文の空欄に入る言葉を本文より二十五字以上三十字以内で抜き出し、始めと終わりの三字をそれぞれ答えなさい。

こと。

問十 本文の内容に最も合致するものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 病気の治療や人の健康維持に関しては、プラシーボ効果とホーソン効果が同時に起こることはあり得ない。
- イ 病院で薬をもらって飲んだら早く治った場合については、まぎれもなく薬そのものの能力が表れた結果だと言える。
- ウ 病気を早く治すためには、プラシーボ効果よりもホーソン効果を利用した治療法の方が有効である。
- エ 病院でもらった薬を飲んで病気が治った場合でも、それがホーソン効果やプラシーボ効果によるものである可能性がある。
- オ 病気を早く治そうとしていくら健康食品を摂っても、規則正しい生活を送らなければ、決して治ることはない。

三

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(本文には一部省略したところと、表記を改めたところがあります。)

高校入学後、剣道部に入った一年生の小林勇は、部内で行われた勝ち抜き戦で最後の四人に残ったが、都大会に出場できる五人のメンバーには選ばれなかった。

防具を傍らに持って、体育館から出ようとしている三年生の一人に勇は声をかけた。七校対抗戦でBチームの主将を務めた人だった。彼は勇を振り返って、さつきはまいったな、と眩し気な眼付きをした。勇は勢い込んでいった。

「先輩、都大会の出場を辞退してもらえませんか」

「辞退？ なぜだ」

「僕が代わりに出たいんです」

彼の眼が細められ、開かれたときには I 色合いが深まっていた。

「おまえ、のぼせているのか」

「僕は試合に出たいんです」

「誰だってそうだ、おれもだ。そのために春休みまで合宿をしたんだからな」

「でも、新学期からの練習には、ほとんど出ていないではないですか」

三年生の肩が不意に盛り上がりを見せた。殴られるかもしれないと勇は思った。たとえ殴られても、試合に出ることが可能ならばそれでよかった。自分がまだ未熟なのは分かっていた。石渡という一年生にすら完敗した。だが、彼一人に刺激を求めることよりも、広い、もっと熱い燃焼できるぶつかり合いの中に身を投じてみたい気持ちの方が強かった。「ア」そうしなくてはならないと思っ

ていた。「これは鳴島が決めたことだ。主将に文句をつけるのは早すぎる」

「文句じゃないです。そうしてほしいんです」

「おまえは確かに強くなった。だが、今度の大会はおれにとって最後の公式戦なんだ。おれだって、おまえ以上にいたい」

彼は足早に体育館を出ていった。歩み去っていく姿が横揺れして勇には見えた。あの人は先輩だ、勇は思った。だが、鍛錬することを忘れた人は、単なる先輩で、剣道の先輩ではない。そのとき、勇は三年生になった自分が、どのような道を歩んでいるかとは考えな

かった。ちらりと頭をかすめたその思いも、すぐに消えた。竹刀しなひを持ちたがっている、試合に出ようとしている自分しか、そこにはいなかった。【イ】

鳴島は金村かねむらたち一年生部員数名に混じって、洗い場で足を洗っていた。勇は少しきつい眼をして鳴島の名を呼んだ。自分①はむきになりすぎているのではないかと考えたが、鳴島の前に立つと、そんなためらいなど消えていった。

「主将、今度の試合に僕を出して下さい」

笑い顔で振り向いた鳴島は、勇の意外な視線に出会って中途半端な表情②に変わった。

「僕は最後の四人に残ったんです。今日は出場選手の審査会だと前に聞いていたじゃないですか」

「ああ、そうだ」

「どうして僕がはずされるんですか。あれでは、初めから練習試合などないのと同じです」

鳴島は片方の足を手拭いで拭って、上履じゆんきに乗せた。

「そうだよ、あれはあくまでも練習試合だ、だから参考にはならん。小林は初めから員数外だ」

「一年生だからですか」

「そうだ」

「でも、主将と副主将を除いた三年生の人たちは、もう剣道をやめているのと同じです」

「おまえが代わりに出れば勝つというのか」

「できれば勝ちたいと思っています」

鳴島は両方の足を拭き終わると、洗い場を離れて、部室に向かって歩き出した。勇は鳴島から半歩遅れるようにして歩く。

「おまえは、おれに対しても、剣道をやめているのと同じだと本当は言いたいんじゃないのか」

しばらくたって、勇はそうですと返事をした。鳴島は低い声で笑った。朝稽古は、三年生に代わって布施ふせが主に指導をとっていたのだ。でも主将はまだまします、と勇はいった。Ⅱ ことをいったと思った。だが、ためらいはなかった。鳴島は強く鼻息を吐いた。まだましか、と咳せきいた。

「三年生にとっては、今度は恐らく最後の試合になる。弱いかもしれないが、一生懸命、丸二年間の成果を生み落とすつもりでやるだろ」

「僕もやります」

「おまえにはまだ先がある。何度でも試合に出る機会がある」

「だから、だから今度も出たいんです」

鳴島は足を止めて勇を見下ろした。この人の胴を抜くのは、そうむずかしいことではない、と勇は思った。「ウ」

「連中には最後の試合だといっているのがわからないのか」

「それはわかります。受験勉強があるのも知っています。でも、試合を、剣道を、思い出にされたくないんです」

自分だったら、剣道をやめた時点で、剣道のこととは全て忘れてしまうのだろうという予感が、勇にはあった。何かは分からない、不明瞭だ、だが、そのときには別のものに熱中し、溺れきっているのだろうと信じた。「エ」

「思い出……」

「僕は今剣道をやっているんだし、金村だってそうです。打ち込んでいます。毎日そればかりです。満足してます。それ以上に夢中です。でも、遊びとも違うんです。いまはそれしかやっていないんです。是非、試合に出たいんです」

鳴島は白い顔をして勇を見ていた。なまった風が勇の横顔を舐めた。気色悪い、と勇は思った。

「おまえの気持ちとは分かった。だが、<sup>③</sup>今度の試合は、おれたち三年生が出る。精一杯戦う。おまえは、力一杯応援しろ」

鳴島は大股に歩き去った。校庭に取り残された勇は、くやしきでいっぱいになった。遠ざかっていく鳴島の後ろ姿が涙でぼやけてきた。やがて、黒一色に脹れ上がって睨にたまった。金村が勇の肩を叩いた。勇は剣道衣の袖で眼をこすった。

「がっかりするな。先輩たちだって勝つかもわからないさ」

「勝てるものか」

「精一杯やるっていつていたじゃないか」

「惨敗する。色目を使って試合に出るやつらなんか、惨敗するにきまっている」

試合に出るために、おれは練習してきたのだと勇は呟いた。練習には、床に佇んで静かに竹刀を構え、透明な固い膜に包まれた相手突き破る凍てついた緊張感がなかった。「オ」

「小林みたいに、おかしなことばかりいつてるやつ、どこからそんな情熱が出てくるんだろうな、不思議だよ」

「おまえは、剣道をお遊戯と間違えている人を、うちの高校の代表として出したいのか、先輩つてのは、そんなに勝手なものなのか」  
金村はあきれた面持ちで勇を見つめた。いつもは人の好い彼の表情に Ⅲ ものが張りつめた。

「いい過ぎだよ。あの人たちだって、三年になるまでちゃんとやってきたんだ。おまえにしたって、剣道は趣味だと、朝いつていたじ

やないか」

勇は頭を振った。唇を囁んだ。

「趣味は気分転換とは違うんだ。あの人たちの心、心をなごませるための剣道なんだ。単なる、夢なんだ」

「それは違う。やってきたことへの総決算だ。趣味だと言いきるおまえの気持ちとは全然別なものだ」

「趣味にだって、命をかけることだってありうる。それ以外にないんだから」

もう一度掛け合ってくる、といって勇は前に進み出た。金村は襟をとって引き戻した。勇の顎が前に浮き上がった。

「よせ、今はよせ。おれだつてくやしなんだ。だがな、おれたちには、我慢することだって必要なんだ」

④ 金村は勇の眼の奥を覗き込んで、下唇を噛んだ。勇は、部屋のドアを見つめていた。鳴島が現れて、勇に向かって手を振り翳すのを待つように、勇は遠くから、ドアを睨み続けていた。

(たかはしみちつな 『高橋三千綱』五月の傾斜)

問一 空欄Ⅰ～Ⅲに入る言葉として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 生意気な    イ 不安な    ウ 険悪な    エ 真摯な    オ 正式な

問二 波線部 a 「完敗」・ b 「惨敗」のここでの意味の違いを説明したものととして最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 「完敗」は一方的な負け方をする事で、「惨敗」は手ひどい負け方をする事である。

イ 「完敗」は一方的な負け方をする事で、「惨敗」は非常に惜しい負け方をする事である。

ウ 「完敗」は納得できる負け方をする事で、「惨敗」は納得できない負け方をする事である。

エ 「完敗」は完全な負けを意味し、「惨敗」は勝てる可能性もあつた不本意な負けを意味する。

オ 「完敗」は堂々とした誇り高い負けを意味し、「惨敗」はみじめで悔しい負けを意味する。

問三 波線部 c 「掛け合つて」の意味として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 一緒に話そうと声を掛けて    イ いやな相手だが直接会つて    ウ いやがる相手をつかまえて

エ 相手の希望について話し合つて    オ 難しい要求について話し合つて

問四 傍線部①「むきになりすぎています」とはどういうことですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 剣道の實力では及ばなくても、議論では絶対に負けたくないと感情的になっているということ。

イ 練習試合で最後の四人に残った自分なら都大会でも優勝できると自信過剰になっているということ。

ウ 都大会で優勝するためには自分の力が必要だとまわりを説得するのに無我夢中であるということ。

エ 都大会に出場することにこだわりすぎて冷静さを欠き、客観的な判断ができていないということ。

オ 都大会に一年生で自分一人だけが出場することを夢みて、まわりが見えなくなっているということ。

問五 傍線部②について、鳴島が「中途半端な表情に変わった」のはなぜですか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 後輩の勇に呼びかけられ、その発言の内容や勇の思いを理解して腹立ちを覚えたが、その真剣な視線に気圧けおされて弱気になったから。

イ 後輩の勇に呼びかけられ、最初は軽い気持ちで振り向いた鳴島だったが、その視線から勇の本気を思いがけず感じ取り、とまどったから。

ウ 後輩の勇に呼びかけられ、気さくに振り向いた鳴島だったが、勇の傲慢な態度に驚き、どうやって自分の非を認めさせるか悩んだから。

エ 後輩の勇に真剣な声で呼びかけられ、何事かと緊張して振り向いたが、たいした内容ではなく、肩すかしをくらったように思ったから。

オ 後輩の勇に呼びかけられ、自分の笑顔に気を悪くしているかのような勇のきつい視線にとっさに反応できず、どう対応しようか困ったから。

問六 傍線部③「今度の試合は、おれたち三年生が出る」とあるが、鳴島がそう決めた理由を三十字以上四十字以内で説明しなさい。

ただし、必ず「一年生」、「三年生」という言葉を使用すること。

問七 傍線部④から読み取れる金村と勇についての説明として適当なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 金村は勇を冷静にさせられない自分に自信を失いかけているが、それでも勇を止めなければいけないと自分を奮い立たせている。

イ 金村は先輩が都大会に出るのは仕方がないと考えながらも、勇の心情を理解し、本当は自分も試合に出たいという気持ちを必死におさえようとしている。

ウ 金村は自分が都大会に出られないことに理不尽を感じるが、自分よりも実力が上である勇も出られないことから、しかたがないとあきらめている。

エ 勇は試合に出ることはもうあきらめているが、金村の手前、それを素直に態度で表せず、しばらくはドアを見つめなければいけないと思っている。

オ 勇は試合に出ることはもう半分あきらめかけているが、それでもきつと鳴島が気持ちを変えてくれるに違いないと期待している。

カ 勇は試合に出ることをあきらめられず、どうしてももう一度交渉したいという強い気持ちがあり、鳴島に話す機会があることを願っている。

問八 本文には次の一文が抜けています。本文中の【ア】～【オ】のどこに入れるのが最も適当ですか。記号で答えなさい。

試合には、それがあつた。

四

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

今は昔、ここかしこの中間・小者<sup>＊ちゆうげん こもの</sup>あまた一所に集まりて、己<sup>おの</sup>が主君の悪しき事<sup>あ</sup>どもを互いに語り出して<sup>そし</sup>誇る。その家の小者、我が主君の悪しき事を語り出さんと思ひて、これの御屋形<sup>＊おやかた</sup>ほどなほどこにも有るまい。もはや人ではない、畜生<sup>①＊ちくじゆう</sup>ぢやと言はんとして、後ろ方を見ければ、御屋形殿後ろに立ちておはしけるを見つけて、人ではないと言ひ直して、仏ぢやと語りし。誠にをかしき事ながら、人の後言<sup>かげごと</sup>をばすべて言ふまじき事なり。

孟子の曰く、人の不善を言はば、正に後の患<sup>＊うれ</sup>へを如何<sup>＊いかん</sup>すべき、と言へり。隠してひそかに謀<sup>はか</sup>る事だにも、天の聞く事雷<sup>いかづち</sup>の如く、神の見る事稲光<sup>いなかり</sup>の如し。景光録に曰く、言を少なうして交<sup>こと</sup>はりを<sup>A</sup>拵<sup>こしら</sup>ふ時は以て悔<sup>まご</sup>やみ吝<sup>を</sup>しむ事無かるべく、以て憂<sup>うれ</sup>へと辱<sup>はぢ</sup>とを免<sup>まか</sup>るべし、と侍<sup>はべ</sup>り。

④漢の馬援<sup>＊ばえん</sup>が曰く、人の過失を聞きては父母の名を聞くが如く<sup>B</sup>にす。耳には聞くことを得べし。口にいふ事を得べからず、と言へり。人の悪しき事を言ふ所には忘れても<sup>B</sup>あるべからず。況<sup>＊いはん</sup>や和<sup>＊わ</sup>して諸共<sup>＊もろとも</sup>に言ふべきか。

(浅井了意『浮世物語』)

(注)

- \* 中間・小者……武家などに仕えた使用人。
- \* 御屋形ほどなほ……主君ほどの人は。
- \* 畜生……人間以外の生き物(獣、鳥、虫、魚)。
- \* 孟子……紀元前四世紀ごろに活躍した中国の思想家で、儒教を發展させた。
- \* 如何すべき……どうすればよいのか、いやどうしようもない。
- \* 景行録……中国の教訓書。
- \* 馬援……中国後漢時代の有名な軍人・政治家で、その手腕によって後漢王朝を支えた。
- \* 況や……ましてや。
- \* 和して……同調して。
- \* 言ふべきか……言うべきか、いや言うべきではない。

問一 波線部A「少なう」・B「ある」を現代仮名遣いに改めたものを、それぞれの選択肢から選び、記号で答えなさい。

A

ア 少なあ    イ 少なく    ウ 少にゆう    エ 少のう    オ 少なふ

B

ア いる    イ おる    ウ える    エ ある    オ うる

問二 傍線部①について、次の(1)・(2)に答えなさい。

(1) 小者は「畜生ぢや」と言いかけて、どのように言い換えたのですか。本文から適切に抜き出して答えなさい。

(2) 小者がどのように言い換えた理由として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 今までに主君から受けたさまざま恩を思い出したから。

イ 自分の言ったことを誰かが主君に告げ口すると思ったから。

ウ 自分の主君が後ろにいることに気づいて悪口が言えなかったから。

エ 主君の悪口としてもっと的確な言い方があると思いついたから。

オ 使用人の立場で主君の悪口を言うべきではないと思いついたから。

問三 傍線部②「孟子の曰く」とあるが、ここで述べられている孟子の言葉の趣旨として最も適当なものを次から選び、記号で答えな

さい。

ア 正義のための非難は必要なものである。

イ 人を非難すれば後で自分に災いをもたらす。

ウ 人の悪口は後から相手を傷つけることになる。

エ 人の悪口は内輪だけしておくべきである。

オ 神は人の悪口を聞かないものである。

問四 傍線部③「交はり」の本文における意味として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 町中の交通
- イ 役目の交代
- ウ 人との交際
- エ 商売の交渉
- オ 道の交差

問五 傍線部④「漢の馬援が曰く」とあるが、ここで述べられている馬援の言葉の趣旨として最も適当なものを次から選び、記号で答

えなさい。

- ア 人の過失を陰で批判するくらいなら、相手に直接言うべきである。
- イ 人の過失は、父母の教えだと思っただけで自分自身の教訓にするとよい。
- ウ 自分の父母の過失を聞いても、それを誰かに伝えてはいけない。
- エ 人の過失を知っても、その真偽が分かるまで誰かに伝えてはならない。
- オ 人の過失を誰かから聞くことはあっても、自分は誰にも言ってはならない。